平成31年度 自 己 評 価 計 画 書

石川県立大聖寺高等学校

1 3年間を見通した進路指導体制を一層充実させ、生徒に高い志を持たせて、一人一人の進路実現を図る。

	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
①	放課後補習を効果的に行い、大学入試に対応できる基礎学力定着と応用力養成を図る。	進路指導課 各教科 3年学年会	習熟別補習が定着し一定の成果が見られる。さらに志望や適性に応じた緻密な計画に基づく補習を展開し、生徒全員の進路実現につなげたい。	【満足度指標(生徒)】 放課後補習は受験学習に効果的に作用している。	効果的に作用していると評価する生徒の割合が A 85%以上である。 B 80%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「役立っている」「どちらかといえば役立っている」の割合が 74.9% (第2回学習実態調査)
②	個人面談を通して生徒理解に努め、生徒個々に応じた進路指導を実践し、3年間を見通した進路指導体制の充実に資する。	進路指導課 学年会	教員と生徒との信頼に基づく面談は十分に機能している。より進路指導に係る知見と助言力を高め、生徒の進路選択を支援したい。	【満足度指標(生徒)】 担任との面談が自分の進路目標設定や進路実現に有効である。	進路を考える上で担任との面談が参考になったと思う生徒の割合が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「担任との面談が参考になっている」「少し参考になっている」の 割合が 1年 89.7% 2年 84.0% 3年 95.1% 平均89.6%
③	大学合格者数の数値目標を達成する。	進路指導課 3年学年会 教務課 各教科	授業第1主義を貫き、高い学力を持つ生徒をさらに伸ばし、基礎学力に課題を有する生徒には手厚い指導をより充実させ、生徒個々の能力を最大限に引き出す必要がある。	【成果指標】 国公立大学合格者数	国公立大学合格者数が A 60人以上である。 B 50人以上である。 C 40人以上である。 D 40人未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 国公立大学に56名(現役52＋浪人4)が合格した。
				【成果指標】 地元の金沢大学と難関大学の合格者数	金沢大学及び難関大学の合格者数合計が A 15人以上である。 B 10人以上である。 C 5人以上である。 D 5人未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 難関大合格者は4名、金沢大学合格者数は4名(現役のみ)。

2 授業と家庭学習の相関を高め、学習内容の確実な定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究と実践を進める。

①	中高交流研究授業、校内公開授業など諸研究授業の実践・参観及び研究協議会やICT活用研修会を通じて、教科指導法等の技能を高め、生徒の思考力の向上に努める。	教務課 各教科	研究・公開授業の実施など各教科での努力により比較的良好な結果が出ている。生徒の資質や適性を把握し、授業での工夫と改善を今後も地道に続けたい。	【満足度指標(生徒)】 授業において自ら深く考える機会があり、学習に対する大きな刺激となっている。	授業において、自ら深く考える機会があり、学習に対する大きな刺激をが得られたという生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 国語 82% 地公75% 数学 82% 理科77% 保体 70% 英語82% 平均 78% (生徒による授業評価)
②	家庭学習時間調査を通じて、生徒の学習状況を把握するとともに、学年会と連携して各種課題提出の徹底を図ることにより、家庭学習習慣の確立に努める。	教務課 各学年会 各教科	家庭での学習時間が十分とは言えない。生徒が自主的に学習に取り組む習慣を育むために、各教科が具体的な指示を与えつつ内発的な動機を促したい。	【成果指標】 1日平均の家庭学習時間を1年生120分、2年生120分、3年生220分とする。	目標時間を達成している生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 1年 54% 2年66% 3年54% 平均 58% (学習時間調査)
			部活動休養日の設定による時間的な余裕に比して、家庭での学習時間が確保できていない。授業との相関を意識させながら、課題学習に取り組む環境を整える必要がある。	【満足度指標(生徒)】 家庭での課題学習が効果的であると考えており、自ら積極的に取り組んでいる。	家庭での課題学習が、授業での学習の際に効果的であると捉え積極的に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 1年 74% 2年 78% 平均 76% (第2回学習実態調査)
③	土曜補習(Sゼミ)を効果的に実施し、学習における基礎基本の定着を図る。	教務課 各教科	土曜補習については、各年度ごとに改善や修正を行い、より効果的な実施を目指している。ただし、効果があると考えている生徒の割合は目標を下回っている。各委員会、学年・教科会でより効果的な方策を追求する。	【満足度指標(生徒)】 土曜補習(Sゼミ)は学習意欲の喚起、基礎学力の養成に効果があると考えている。	効果があると考えている生徒の割合が A 80%以上である。 B 65%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 1年 49% 2年 42% 平均 45% (第2回学習実態調査)

3　生徒個々の人格の陶冶を目指し、部活動や生徒会活動の活性化を図るとともに、地域行事等への積極的参加を促す。

①	部活動の内容を充実させ、活性化を図り、文武両道を目指す。	生徒指導課	1年生は全員部活動に加入しているが、活動に満足している生徒は後半に従って低下傾向にある。その原因を検討するとともに、より満足度を高める工夫が必要である。	【成果指標】 1年生の部活動に対する満足度を高める。	満足している1年生の割合が A　80%以上である。　B　60%以上である。 C　40%以上である。　D　40%未満である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「満足」、「どちらかといえば満足」の割合が69.1% （第2回学習実態調査）
②	運動部の競技力向上を図る。	生徒指導課	体操部や弓道部、放送部が全国大会に出場している。ただし、男子の部活動と団体競技の強化が課題である。	【成果指標】 県高校総体で総合順位25位以内をめざす。	県高校総体順位が A　25位以内である。　B　26位～30位である。 C　31位～35位である。　D　36位以下である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成28年度は33位 平成29年度は25位 平成30年度は35位
③	部活動が地域や中学校との連携を図り、地域に愛される学校づくりを目指す。	生徒指導課	多くの部活動が地域のボランティア活動や中学校との合同練習を行っている。地域や中学校との交流をさらに活発に行いたい。	【成果指標】 全22の部活動が年1回以上、地域や中学校と連携し、活動を行う。	地域や中学校と連携し、活動を行った部活動が A　20以上である。　B　16以上である。 C　12以上である。　D　8未満である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度、20／26の部活動が地域または中学校と連携して活動した。 （部活総数昨年より4減）

4　挨拶の励行や交通ルールの遵守などの指導を丁寧に行い、基本的生活習慣の確立と規範意識・マナー意識の高揚を図る。

①	PTAと連携し登校指導や挨拶運動などを通して、挨拶の励行及び正しい制服の着こなしと規範意識、マナー意識の高揚を図る。	生徒指導課 総務課 学年会	交通マナーやJR乗車マナー、服装容儀、挨拶については年々向上している。地域の範となるべく、より高いレベルを目指す。	【満足度指標（保護者）】 生徒の挨拶がしっかり行われていると感じている。	生徒の挨拶がしっかり行われていると感じている保護者が A　90%以上である。　B　75%以上である。 C　60%以上である。　D　60%未満である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「生徒の挨拶がしっかり行われている」の割合が 75% （保護者アンケート）
②	遅刻の管理をし、基本的生活習慣の確立をさらに推し進め、学習環境を充実させる。	生徒指導課 学年会	例年、冬季に遅刻が増加する傾向がある。基本的生活習慣を確立し、落ち着いた雰囲気で朝学習を始められるよう指導を徹底したい。	【成果指標】 1日の平均遅刻者数が1人以下になることを目指す。	全体の1日平均の遅刻者数が A　0．5人以下である。　B　1人以下である。 C　3人以下である。　D　3人を超える。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 1日平均　1．56人
③	いじめのない学校づくりをめざし、共通理解に基づいて、全職員がいじめの早期発見・早期解決に向けて連携する。	生徒指導課 保健相談課 学年会	日常的指導に加え、講演会などの取組を進めるとともに、アンケートや生徒との面談を通じて情報収集と指導を図っている。	【努力指標】 課題のある生徒への対処で、学年会や教育相談、生徒指導などが十分に連携している。	連携しているとする教員の割合が A　90%以上である。　B　80%以上である。 C　70%以上である。　D　70%未満である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「課題のある生徒への対処で、学年会や教育相談、生徒指導等が十分に連携している」の割合が79% （教員アンケート）

5　業務の精選・効率化・平準化に取り組み、生徒と向き合う時間を確保しつつ、時間外勤務時間の縮減に努める。

①	学校全体や担当する分掌において、業務の精選・効率化に取り組む。	全員	個人で担当する業務に関しては、工夫して実行することが比較的容易であった。各課の業務の差配を的確に行い、課全体での取組事項を考える必要がある。	【成果指標】 業務の精選・効率化につながる取組を考え、実行する。	担当する分掌において、具体的な取組を考え、実行した教員の割合が A　90%以上である。　B　80%以上である。 C　70%以上である。　D　70%未満である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「分掌で業務の精選や効率化の取組をしている」と回答した割合が82.1% （教員アンケート）
				【満足度指標】 学校全体の取組として、業務の精選・効率化が進んでいると感じられる。	学校として多忙化改善のための取組が進んでいると感じている教員の割合が A　90%以上である。　B　75%以上である。 C　60%以上である。　D　60%未満である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「学校全体として多忙化改善の取組が進んでいると思う」と回答した割合が41.0% （教員アンケート）
②	部活動運営において、時間を意識した効率的な指導を行う。	部活動顧問	年度後半になるに従い、実践の割合の低下が窺えた。4月時点での計画を年間を通して実行することに、やや困難を感じた部顧問が増えたためと考えられる。	【成果指標】 適切な部活動計画を立て、年間を通じて遂行する。	適切な計画を立て、かつ、おおむね実行できたと考える教員の割合が A　90%以上である。　B　80%以上である。 C　70%以上である。　D　70%未満である。	C，Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度 「あてはまる、ややあてはまる」と回答した割合が 79.5% （教員アンケート）